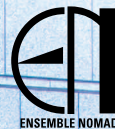


アンサンブル・ノマド 第69回定期演奏会



ともに生きるVol.1

～うたう過去、うたう土～

2020
9/15 Tue.

東京オペラシティリサイタルホール
18:30開場 19:00開演

Ensemble NOMAD

佐藤紀雄(gt/cond) 木ノ脇道元(fl) 菊地秀夫(cl)
花田和加子(vn) 甲斐史子(va) 佐藤洋嗣(cb)
稲垣 聡(pf) 宮本典子(perc)

出演者

Guests

波多野睦美 (mezzo-soprano)
瀧井レオナルド (lute)
ヨルダン・マルコフ (gadulka/voice)
大鹿由希 (violin) 山澤 慧 (cello)

プログラム

高橋悠治: 冷却の音 (藤井貞和の回文詩による) (2020) - 荒木田隆子基金委嘱 ～世界初演
Yuji Takahashi: Reikyaku no Oto [Cooling Sound] (on Palindromic Poems by Sadakazu Fujii) - World Premiere

渡辺裕紀子 (編曲): ソングス (2020) - 荒木田隆子基金委嘱 ～世界初演
Yukiko Watanabe (arrangement): Songs - World Premiere

壺井一歩: 宮本正清の詩による音楽スケッチ「歌え 杜の小鳥」(2016) より
Ippo Tsuboi: From Music Sketch on poem by Masakiyo Miyamoto "Utate Mori no Kotori"

エベルト・バスケス: 「旅の印象」(2016) より第3番、第8番 ～日本初演
Hebert Vázquez: Impresiones de viaje Nos.3 and 8 - Japanese Premiere

ジョン・ダウランド: 「ラクリメ、または7つの涙」(1604) より
John Dowland: From "Lachrimae or Seaven Teares"

ジュリオ・カッチーニ: 『新しい音楽』(1602) より「アマリッリ」
Giulio Caccini: "Amarilli" from *Le Nuove Musiche*

ヘンリー・パーセル: 歌劇『デイドとエネアス』(ca.1689?) より「私が地中に横たえられた時」
Henry Purcell: "When I am laid in earth" from Opera *Dido and Aeneas*

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル: オラトリオ『セメレ』HWV.58 (ca.1744) より
「ここから、アイリス、立ち去りましょう」
Georg F. Händel: "Hence! Iris hence away" from Oratorio *Semele*

ジョヴァンニ・ジローラモ・カプセルガー: タブラチュアによるリュート曲集第1巻 (ca.1611?)
トッカータ 第6番
Giovanni Girolamo Kapsperger: Toccata 6ta from Libro d' intavolatura di lauto

ブルガリアの音楽 -Bulgarian Music

1. デヴォイコ・マリ・フバヴァ 2. キュステンディルスカル・ルチェニツァ 3. バヴナ・メロディヤ
1. Devoiko Mari Hubava 2. Kyustendilska Rachenitsa 3. Bavna Melodia

チケット

7月1日(火)
発売予定

【前売】

一般 ¥3,000
大学生 ¥2,000
高校生以下 ¥1,000

【当日】

一般 ¥3,500
大学生 ¥2,500
高校生以下 ¥1,500

(就学前のお子様の同伴・ご来場はご遠慮下さい)

※発熱や咳など、体調不良の症状がある方や、マスクを着用されていない方はご入場いただけません。詳細は下記団体WEBサイトをご覧ください。

チケット取り扱い

東京オペラシティチケットセンター
Tel:03-5353-9999

アンサンブル・ノマド ウェブサイト
<http://www.ensemble-nomad.com/>

お問い合わせ

キーノート

Tel:0422-44-1165

keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

主催／一般社団法人 アンサンブル・ノマド <http://www.ensemble-nomad.com/>

助成／公益財団法人 ロームミュージックファンデーション NOMURA FOUNDATION

公益財団法人 朝日新聞文化財団

アンサンブル・ノマド 第69回定期演奏会



ともに生きるVol.1

～うたう過去、うたう土～

明日世界がどうなっているか分からない、また今自分たちがどこに位置するかすら判然としない、全てが不透明な時代を私たちは生きている。そんな困難な時にふと語りかけるのは亡くなった方。亡くなった方たちはいなくなったのではなく、死者として私たちの身近に共に生きている。語りかけるような波多野睦美さんの歌にしずかに耳を傾けるプログラムをつくった。

佐藤紀雄

この道や
行くひと
の暮れ
な声なき
社にまじり
除染
村、薬玉は
私が大地に横たえられるとき...
私を覚えておいて
でもこの最期は忘れるように

Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年に行った定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー芸術財団「第2回佐治敬三賞」を、2015年に行った定期演奏会「再生へVol.3:祈り〜エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「パン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコのセルバンティーノ音楽祭に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月には再び中国四川公演を行ったほか、今後も中国、オランダやドイツ、フランスなどでの公演を予定している。

また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

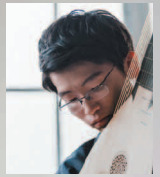
CDは、近藤 謙「梔子」(ALCD-47)、「空の眺め」(ALCD-57)、「オリент・オリエンテーション」(ALCD-67)、「表面・奥行き・色彩」(ALCD-93)、石田秀実「神聖な社の湿り気を運ぶもの」(ALCD-60)、池辺晋一郎「炎の資格」(CMCD-28121)、福士則夫「花降る森」(CMCD-28128)が発売されている。海外ではエベルト・バスケスの「Bestiario (動物寓話集)」が2011年に、「Pruebas de vida (生命の証)」が2015年にリリースされ、2014年にはオリジナル・アルバム「めぐる—Meguru」をリリース。2015年夏から秋にリリースされた「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。

公式ウェブサイト: www.ensemble-nomad.com/

Guests



波多野睦美 (mezzo-soprano)



瀧井レオナルド (lute)



ヨルダン・マルコフ (gadulka/voice)



大鹿由希 (violin)

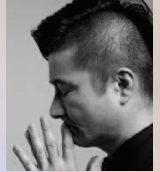


山澤 慧 (cello)



Ensemble NOMAD

佐藤紀雄 (gt/cond)



木ノ脇道元 (fl)



菊地秀夫 (cl)



花田和加子 (vn)



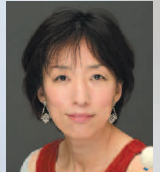
甲斐史子 (va)



佐藤洋嗣 (cb)



稲垣 聡 (pf)



宮本典子 (perc)



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分

Photos: Ensemble NOMAD (表) © Maki Takagi
波多野睦美 (表裏) © HAL KUZUYA